

# KSK じんかれんニュース

NO. 32 平成 29 年 8 月号

発行人/ 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター横浜ホール 3F  
横浜市車椅子の会内

編集人/ NPO 法人じんかれん

(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2

神奈川県精神保健福祉センター内

TEL 045-821-8796 FAX 045-821-8469

e-Mail: [jinkaren@forest.ocn.ne.jp](mailto:jinkaren@forest.ocn.ne.jp)

HP: <http://www.geocities.jp/jinkarennet/>

定価 50 円 (会員は会費に購読料が含まれています)

## ◆精神保健福祉法改正案 今国会成立見送り

相模原障害者施設殺傷事件を受けて、措置入院患者の支援を強化する精神保健福祉法改正案の今国会での成立が見送られることが分かった。5 月 17 日に参院を通過していたが、国会会期が延長されないこととなり衆院での審議時間が確保できなくなった。法案は継続審議となり、塩崎恭久厚生労働相は 6 月 16 日の記者会見で「次の国会で速やかに成立するよう努力しないとイケない」と述べた。

厚労省は当初、法案の目的を説明文書で「事件の再発防止」としていたが、野党から「精神科医療に犯罪防止を担わせるのはおかしい」とい

った指摘が相次ぎ、参院での審議中にこの記述を削除。塩崎厚労省が法案の趣旨説明をやり直す異例の事態となり、審議が長期化した。

厚労省によると、法案は、精神疾患のため自分や他人を傷つける恐れがあるとして入院させる「措置入院」の対象となった患者について、入院を決めた都道府県や政令市が一人一人の支援計画を策定するよう義務付ける内容となっている。精神障害の当事者らは「精神障害者への監視強化だ」と反発し、野党からは「修正して提出し直すべきだ」との声が上がっている。

(H29. 6. 17 神奈川新聞より)

精神保健福祉法改正案は、参議院の審議を経て、会期末間際の 6 月 15 日に衆議院厚生労働委員会に付託され、翌日 16 日の同委員会で閉会中審査とすることになりました。国会は、会期が終了すると閉会になりますが、閉会中でも審査を行うことができます。この議決によって、各議院の委員会、閉会中も会議を開いたり、委

員を各地に派遣したりして、審査または調査を行うこととなります。通常ですと、国会会期中に成立しないと廃案となることを継続扱いとなり、次期国会での成立を確実にする手立てがとられたということです。

(H29. 6. 22 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会)

## ◆平成 30 年度要望書を神奈川県議会議員団・神奈川県知事へ提出とヒアリング

平成 30 年度要望について下記の日程にて行いました。

7 月 12 日自民党、民進党、 7 月 26 日県政会、 8 月 2 日公明党、県知事（障害福祉課）へ要望書提出とヒアリング。 共産党へ要望書提出。

平成 30 年度精神保健福祉の改善充実に関する要望書を神奈川県議会議員団及び県知事（障害福祉課）に提出しました。ヒアリングにおいては、その障害ゆえに自分の意見を述べるのが難しい精神障害を持つ当事者の心の声を代弁する家族の切なる思いを訴えました。

いまだに他障害と比べ平等ではない実態を伝え、三障害平等の施策を実現してほしいと訴えました。昨年同様 11 項目の継続要望です。特に早期に実現してほしい重点項目として 3 項目をヒアリングの中で取り上げました。

### 1) 「神奈川県重度障害者医療費助成制度」を精神障害者精神保健福祉手帳 1 級と 2 級保持者にも、身体障害者や知的障害者と同等に適用してください。

神奈川県は平成 24 年 4 月から、精神障害者の内、精神障害者保健福祉手帳 1 級保持者の通院医療費が無料となりました。しかし、入院医療費は助成の対象となっておりません。また精神障害者保健福祉手帳 2 級保持者は、全くの対象外で、精神科通院医療費が 1 割負担

となっていますが、それ以外はすべて 3 割負担です。一方、身体障害者手帳 1 級と 2 級保持者及び知的障害者の療育手帳 A-1 級と A-2 級保持者は、すべての診療科目の通院と入院医療費が無料となっています。

### 2) 身体障害者と知的障害者だけに適用されている神奈川県内の「バス運賃割引制度」を、精神障害者に対しても適用するよう、神奈川県バス協会に働きかけをしてください。

川崎市や横浜市は福祉施策の一環として、バス事業者に対し助成を実施しているため、精神障害者にも割引が適用されていますが、その他の市町村では、精神障害者には、割引制度がありません。特に、神奈川県西部や県北部は、バスしか公共交通機関がない等、交通の便が悪く、バス料金の負担も大

きになっております。収入・経済面で大きなハンディを持ち、社会参加することや福祉施設・医療機関に通うことが難しい精神障害者にとって、公共交通運賃の割引は社会参加を促し、地域で暮らしていくための大きな力となります。

### 3) 精神科救急医療体制を、拡充し、更に、仕組みに関する情報を整備し公開してください。

県内の精神科救急医療体制は、精神障害者を夜間、休日に受け入れる基幹病院、協力病院が大変少ないのが現状です。また、精神障害者が身体合併症に患った場合に、受け入

れ可能な基幹病院も限られています。医療関係者に対する研修も含めて、早急に拡充を図ってください。

## ◆講演会参加報告 「津久井やまゆり園事件から 1 年 ～私たち精神保健福祉士ひとりひとりができること～」

平成 29 年 7 月 1 日 於;神奈川県立かながわ労働プラザ

神奈川県精神保健福祉士協会及び公益社団法人日本精神保健福祉士協会神奈川県支部定期総会における基調講演より

講師: 石渡 和美氏 東洋英和女学院大学人間科学部保育子ども学科教授

### 《講演概要》

昨年 7 月 26 日、県立の障害者支援施設である津久井やまゆり園で発生した、大変痛ましい事件が二度と繰り返さないよう、神奈川県は有識者による検証委員会を立ち上げ、事件の背景、今後のあるべき方向等を検証しました。委員長を務められた東洋英和女学院石渡教授により、精神保健福祉士(PSW)を前に講演されました。概要は、(1)危機対応にあたっての考え方 (2)関係機関の情報共有のあり方 (3)社会福祉施設における安全管理体制のあり方 (4)障がい者への偏見や差別的思考の排除。

事件が問うた課題として①なぜ起こったか、防げなかったか ②再発防止策としての防犯体制のあり方。今後の課題:これらの検討こそ事件後求められる。①当事者主体の地域生活の実現〈建て替えは?〉②優生思想克服のための人権教育 ③福祉人材の育成と待遇 ④被害者の心のケア ⑤マスコミ報道のあり方など。そして、一般社会に潜在する障がい者への『差別』と『偏見』を払拭することは社会全体の責務であると考え。それは「一人ひとりを大切にする」などの研修だけでは解決できないことを改めて思わされた。障がい者が地域社会の一員として、分け隔てなく当たり前生きていく中でしか、お互いを認め合う関係は生まれないと考える。『ともに

生きる社会かながわ憲章』の中で、この事件は、障がい者に対する偏見や差別的思考から引き起こされたと伝えられ、障がい者や、その後家族のみならず多くの方々に言いようもない衝撃と不安を与えました。「私たちは、これまでも『ともに生きる社会かながわ』の実現をめざしてきました。そうした中でこのような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざす」と結んでいます。

障がい者が住み慣れた地域で分け隔てなく安心して暮らしていくには、当事者不在ではなく、その思いを受け止めた支援者、親、家族、地域の人など周囲の人々の対応が必要となり、障害者の良き理解者になることにより、市民全体の支援に繋がっていく。

現在は障害者福祉の潮流が「施設から地域へ」と転換する中、事件は地域移行が進まない実態も浮き彫りにし、障害者の暮らしの場の在り方があらためて焦点となっている。県は入所者約 130 人が戻れる規模を前提に現地再建を打ち出したが、有識者や障害者団体から「逆行する」などと異論が相次ぎ現在は専門家らにより検討中。施設は 2018 年度以降に取り壊されることになっているが、その後の具体的な姿はまだ定まっていない。(三富)

## ◆精神医療センター見学会アンケート結果の報告

5 月 2 3 日 じんかれん定期総会後に行われた施設見学会におけるアンケート調査の結果を報告致します（精神医療センター副事務局長鈴木様作成）

先日はご多忙にもかかわらず、当センターへ見学いただき感謝申し上げます。

皆様からご協力いただいたアンケートの結果とご質問・ご意見について返答させていただきます。

回収率 97.4%(37/38 名)

1.「当センターの概要について」あてはまるものに○をつけてください。

分かりやすかった      普通      分かりにくかった

2. 院内の見学はいかがでしたか。あてはまるものに○をつけてください。

分かりやすかった      普通      分かりにくかった

|                | 評価項目     | 人数 |
|----------------|----------|----|
| 1. センターの概要について | 分かりやすかった | 30 |
|                | 普通       | 5  |
|                | 分かりにくかった | 2  |
| 2. 院内見学        | 分かりやすかった | 31 |
|                | 普通       | 4  |
|                | 分かりにくかった | 1  |



3. 自由記載

| ご意見・ご質問                                                                                                                                                                                                          | 解答                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「抗精神病薬」「訪問看護の実態」について公開講座、病院外での出張講演会をお話していただけないか。</li> <li>・普及啓発の情報を知りたい。研修・講演会他</li> <li>・幻聴がひどくどっぷり浸かっている。こういう患者との関わり方などの講演を聴きたい。・講義をお願いする時の申込先を知りたい。</li> </ul>        | <p>昨年は医療者向けに外部の講師を招き公開講演や院内講師での公開の勉強会、講座を開催しました。また一般のかたを対象に公開講座をケアプラザで実施しました。今年度も公開講座ができるよう検討しています。ご意見は勉強会、講演会等に役立てていきたいと思ひます。講義依頼は事務局または地域連携室に連絡をお願い致します。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者に病識を持ってもらうためにどのような事を行っているのですか？</li> </ul>                                                                                                                             | <p>患者様のケースや個別的に医師・薬剤師・看護師などから疾病教育を行っています。また、ミーティングなどを利用してグループでの疾病教育も行っています。</p>                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市では 28 年 3 月より？緊急搬送が警察と消防(救急車)と合体して活動することになったとの事。そういう時この病院を指名できるのですか。・救急の当病院の役割(家族として利用しにくい。県救急システムの中で)を説明して欲しい。・救急診療について搬送がどうなっているか、現状では理解しがたく、改善をしてもらいたい。</li> </ul> | <p>精神科救急システムの調整は行政が行っております。今回のご意見は行政との意見交換等に役立てたいと考えます。</p>                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立病院として中核をなしていることがよくわかった。小中学生を含めて学生への精神障害、精神疾患の啓蒙にも尽力して欲しい。</li> </ul>                                                                                                   | <p>昨年度は県内全域の中・高校(18 校)に向け薬物乱用防止教室を当センターから講師派遣し実施しております。</p>                                                                                                    |



|                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・救急入院に対する当事者の感想、家族の意見、各種スタッフの対応事例等を括めて発表して欲しい。</p> <p>具体的なケースを知って於いて、いざという時に役立てたい。</p>                                                                                      | <p>次回の説明の際の参考にさせていただきます</p>                                                                                                                                              |
| <p>・世の中の人々の偏見に対しての啓発をお願いしたい。依存症の話が多く、できれば精神障害の関係の話と見学をしたかった。</p> <p>・見学の内容が統合失調症とは違ったので、知りたい内容で見学させて頂くとありがたいと思った。</p> <p>・全フロアの見学ができればよかったです。</p>                              | <p>この度は見学人数の都合から依存症病棟を見学のスケジュールに入れることになりました。ご期待に添えず申し訳ございません。</p> <p>今後の見学対応の参考にさせていただきます。</p>                                                                           |
| <p>・精神医療センターの存在アピールをもっとしたらどうか。</p> <p>・当センターの紹介ビデオ、CD 等があれば家族会で知る事ができる。作る事はできませんか。</p>                                                                                         | <p>神奈川立病院機構のホームページに PR 動画で職員採用向けではございますが、当センターの紹介を掲載しています。参考にしてください。</p>                                                                                                 |
| <p>・地域の医療機関の指導的立場を実践していただきたい。</p> <p>・一般の開業医レベル向上等、当センターの役割の一つになりますか。一般家族への PR、周知も大切ですが、そちらの方はもっと大事ではないでしょうか。</p> <p>・県民のための施設の主旨を貫いて下さい。県外の方はご遠慮願いたい。県下の病院の指導的役割を強く希望します。</p> | <p>精神科中核病院として役割を発揮してまいります。また他病院のモデルとなれるよう努力してまいります</p>                                                                                                                   |
| <p>・急性期で入院し、治って退院しても再入院を繰り返すことは多いですか。</p>                                                                                                                                      | <p>精神科疾患の特徴から再燃しやすい病気とされていますが、当院の患者も再入院にいたるケースが多い傾向です。</p>                                                                                                               |
| <p>・地域との連携、訪問看護の範囲はどれほどのところまでか？</p>                                                                                                                                            | <p>訪問看護件数利用者は約150名。訪問件数は約2400件です。訪問看護の範囲は横浜市内全域・川崎・横須賀等でございます。</p> <p>神奈川県全域の病院や関係機関との連携をとらせていただいておりますが、主に南区、港南区、戸塚区が多いです。</p>                                           |
| <p>・規模の大きさ、多岐にわたる診療を短時間で理解するには時間不足なので、HP にアクセスしもう少し勉強が必要。HP での理解が早く深くできるものと思う。</p>                                                                                             | <p>HP ページは随時、見直し修正を行っております。ご意見を参考にさせていただきます。</p>                                                                                                                         |
| <p>・需要と供給のバランスはどうか。何年待ち等申し込みから入院までの平均月数、入院限度はありますか。</p> <p>・簡単に入院できるか疑問である。大いに開放してもらいたい。</p>                                                                                   | <p>入院期間の限度はもうけてはいませんが 3 ヶ月での退院を目標にしています。入院が長期にいたることで病床に空きがなく、希望される患者さんの期待に応えられないケースもございます。そのため、申し込みをされてから数ヶ月お待ちいただくことがあります。</p> <p>治療が必要な患者さんの受け入れができるよう今後も努力して参ります。</p> |
| <p>・親と医師は入院治療を望んでいるが、本人が嫌がっている。何とかいい方法はありませんか。</p>                                                                                                                             | <p>ご本人の意思でない強引な治療は人権やプライバシーの問題から病院が直接介入することは難しいように思います。地域の保健所などにご相談してみてもいいかでしょうか。</p>                                                                                    |

## ◆講演会参加報告

### 「精神医療について思うこと」

～当事者・家族・精神科医の 3 つの立場から～

講師：夏苺郁子氏（精神科医 やきつべの径診療所）

青い麦の会では、7 月 22 日、鎌倉市福祉センターにおいて公開講座を開きました。講師の夏苺先生は、1954 年生まれ。10 歳の時、母親が統合失調症を発症し、家族を顧みない父親のもとで、苦悩の日々を送りました。両親が離婚後、父親のもとに残った夏苺さんは、母親と会うことを 10 年間拒否していたのですが、知人の仲介で再会。母親は 78 歳で亡くなります。その間、医学生となるも、うつ病・摂食障害を患い、自殺未遂を起こし、孤独と絶望の日々を送りますが、やがて、精神科に入局することが出来ました。精神科にかかったことは封印したまま精神科医として 30 年間臨床していましたが、中村ユキさんの「我が家の母はビョーキです」を読み、触発され、自らも、母親のこと、自分のことを症例にした論文を発表し、「心病む母が残してくれたもの」を著し、一般に公表します。この時から、全国の家族会その他の団体から講演依頼を受け、多くの当事者・家族に希望と勇気を与え、一方、精神科医として、当事者本位の精神医療確立を目指して奔走しています。

当日は、「人格形成の土壌は、家族と社会だと思っています。現代はつまづかないで生きていくのは難しい時代。つまづいた人をどう支えたらよいか、また、つまづいた人が回復するとはどういうことかについて、私が回復する過程を実例としてお話ししたいと思います。」と、始められました。

以下に、この講演の中で特に、家族・当事者にとって助けになると思われる部分を書き出しました。

○ 統合失調症の原因は不明。発症がほとんど思春期に起きていることから、現在は、いくつかの仮説に基づいて効果を求めて薬物投与をしている段階。ただ、発症前の「前駆期」は大変大事。精神疾患についての知識があれば、この時期、ストレス回避が可能になる。中学時代の精神疾患に関する教育が必須。

○ 精神疾患と家族の暴力について。暴力を振る

わざるを得ない状態に家族を追い込む犯人は、「病気」と「偏見」。みんな、この犠牲者になっている。

○ 「あなたは孤独で寂しいから、自暴自棄の生活になっているのね。でも、死ぬのだけはやめて。這ってでも生きて。」と言ってくれた友人がいた。彼女は、癌に罹り 36 歳で亡くなった。それから私は、「ちゃんと生きよう。自分の体を大事に、健康に生きよう。」と決心した。そして、夫に出会った。

○ 病気の苦しさから抜け出すためには、先ず、「良い医療」が必要。他に、訪問看護などの具体的支援。更に、身近な人の、本人のおぞましい過去には触れないという「善意ある無関心（言うまで聞かない）」も大事。

○ 過去は変えられない。でも、ある程度過去の清算ができると、人に自分の過去を語ることができる。「公表」することによって、過去をプラスに考えられるようになった。語ることは、治療になる。強くなれる。

○ 今は、苦しい過去を私に与えた両親との和解の時。和解は、回復につながっていく。「回復とは、和解のプロセスである。」

○ 精神科医は確かに権威を持っている。どうしても当事者・家族に対して上から目線になってしまう。病人に仕立て上げてしまう。そうならないために、皆さんの力が必要。当事者も家族も勇気を持って、「大事なこと、あたりまえのことなのに聞きにくいこと」をどんどん質問してほしい。（\*「質問促進パンフレット」を参考に）

\* ネットからダウンロードすることができます。

○ 家族・当事者・精神科医としての立場から言いたいこと。それは、家族・支援者は、「人薬（ひとぐすり）」「時間薬（じかんぐすり）」をあげてほしいということ。周囲が先回りしない。「待つ」こと。本人が考える回復が不可欠。回復には、科学では測れない予想外の展開もあるのだから。

（樫原）



## ◆イベント・研修会のお知らせ



### 平成 29 年度第 1 回 じんかれん研修会(精神障害者家族相談員養成事業)

日時： 平成 29 年 8 月 8 日(火) 13:00~15:30

会場： かながわ県民センター 会議室 305  
(横浜駅西口より徒歩 5 分、ヨドバシカメラそば)

参加費無料・予約不要

講師： 氏家 憲章氏

テーマ「精神科医療の改革と展望」～私たちの願う精神科医療とは…改革に向けての新しい動き～

### フォーラム 「統合失調症を生きる ～病とともに 自分らしく～」

統合失調症は、100 人に一人がかかるといわれている大変身近な病気です。

病気についての正しい知識、生活をしていくうえで役に立つ様々な情報を専門分野の方々（医療従事者、当事者、家族など）が VTR も交えてわかりやすく紹介し、統合失調症に関わるひとりでも多くの方に希望をお届けできるようなフォーラムを目的として開催します。

日時： 2017 年 9 月 3 日(日) 12 時 30 分~15 時

主催：NHK エンタープライズ

会場： 川崎市教育文化会館・川崎駅東口より約 1 km、徒歩にて 15 分。バスあり

参加費： 無料 取材 VTR の上映を交えたパネルディスカッション 800 名予定

主催は NHK エンタープライズです。NPO 法人じんかれんはこのイベントを後援いたします。参加費無料ですが、申込み制です。申込み用紙（ちらし）が届き次第お渡ししますので参加希望者は、じんかれん事務所にご連絡ください。（火・木 10 時~16 時）TEL 045-821-8796

### 第10回全国精神保健福祉家族大会 in 岡山 みんなねっと岡山大会

テーマ： みんなで一緒にやろう！～地域を変える「特区」づくり～

日時： 2017 年 10 月 19 日(木)・20 日(金)

会場： 倉敷市芸文館 JR 倉敷駅より徒歩 15 分、バス 3 分

参加費： 3,000 円 (じんかれんより補助)

主催： 全国精神保健福祉会連合会

みんなねっと

岡山県精神障害者家族会連合会

白壁の屋敷、倉敷川沿いの柳並木 歴史ロマン薫る倉敷・美観地区での全国大会です

## 全国精神保健福祉社会連合会 2017 関東ブロック大会 IN 埼玉

テーマ:『家族の力で地域を変える!』 ~精神障害があっても暮らせる地域を目指して~

基調講演 : 「地域医療福祉と家族会の役割 (仮)」

講師 : 伊藤 順一郎氏 (しっぽふぁーれ院長)

シンポジウム「家族の力で地域を変える!」

主催: 埼玉県精神障害者家族会連合会

共催: 全国精神保健福祉社会連合会

みんなねっと

日時 : 平成 29 年 11 月 2 日 (木) 10 時 ~ 16 時

会場 : 大宮ソニックシティ 小ホール ◆JR 大宮駅より徒歩 3 分

参加費 : 無料

## NPO 法人じんかれん 第 44 回「県民の集い」 in さがみはら

平成 29 年度 神奈川県精神保健福祉家族住民交流事業

テーマ: ひらく! ~わたしたちは、どう繋がり、どう変わればよいか~

講演: 「生きづらさとは何か」 ~精神障がいをもつ本人や家族との 30 年のかかわりを通して~

講師: 青木聖久氏 (日本福祉大学教授・全国精神保健福祉社会連合会みんなねっと理事)

日時: 2017 年 11 月 21 日 (火) 13:00 ~ 16:00

会場: 相模原南市民ホール

参加費: 無料

◆小田急線相模大野駅徒歩 10 分

主催: NPO 法人じんかれん (神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

相模原市精神障害者家族会みどり会

座間市精神福祉促進会サポートさま

### じんかれん家族相談ご案内

一人で悩まず、同じ悩みを持つ家族や  
専門の相談員に相談してみませんか

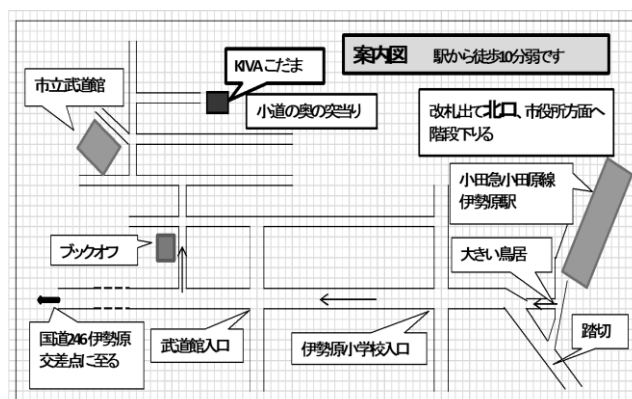
電話相談 毎水曜日 10 時 ~ 16 時

☎ 045-821-8796

面接相談 第 3 水曜日 13 時 ~ 16 時 (要予約)

KIVA こだま (伊勢原) にて  
秦野病院 山下看護師による面談  
予約受付; 火・木 10 時 ~ 16 時  
☎ 045-821-8796

### KIVA 地図 (小田急線伊勢原駅より徒歩 10 分)



赤い羽根 かながわ 平成 29 年度じんかれんニュースは

神奈川県共同募金会の助成を受けて編集、発行しています。この機関誌を通じて精神障害の保健福祉の向上に努めて参ります。募金にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

